

知識情報・図書館学類生のための学び直しシステム

宮本 奈緒

一般に授業や講義の内容は時間が経つにつれ、記憶が薄れていってしまう。記憶をとどめておくためには繰り返し学んだ知識を思い返すことが必要となる。そこで、一度覚えた内容を記憶として定着させるためには学び直しが必要だといえる。学び直しの方法としては、教科書や参考書、授業プリントの読み返しなどがあげられる。しかし教科書や授業のプリントの全てを読み返すには範囲が広く、科目全体の内容を網羅するのは困難である。そこで本研究では、授業の重要語句に注目し学び直しをする。なお、今回は知識情報・図書館学類に限定する。そこで、学類のカリキュラムに沿った学び直しをし、知識の定着を図ることを目的とする。

本学類の学び直しをするにあたり、学類の重要語句を学ぶものが必要となる。そこで、本学類の科目の重要語句を用いた問題を作成していく。学類のカリキュラムに沿った学び直しをするため、授業に添った形で問題を作成していく。作成した問題を、ウェブブラウザ上で閲覧利用できるように moodle を用いてシステムを構築し、システム上で確認問題が解けるようにした。

作成したシステムにより、重要語句を用いた問題で学び直しの効果があるかの検証を行うため、評価実験を行った。被験者は「学び直しの方法に指定はなく自由に自主学習」をするAグループと、「システムを通し重要語句を用いた問題を解き、かつ不足分を自主学習」するBグループの2グループにわけ、1週間自主学習を行ってもらい、自主学習を行う前後で確認問題を行い、得点差を比べ、知識の定着が図れたかを検証していく。また、コンセプトマップの作成も行い、知識構造の広がりも検証していく。

実験の結果、Aグループは事前問題に比べ事後問題の点数の伸びがあまり見られなかったのに対し、Bグループは事前問題に比べ事後問題の点数の伸びが見られた。システムを利用することで確認問題の点数が上がったことが分かり、重要語句を用いた確認問題により学び直しができることが明らかとなった。また1週間の期間を経て、確認問題の得点が上がっていたことから、知識の定着ができたといえる。コンセプトマップのラベル数の増減は、Aグループに比べBグループの方がラベルの数が増加しており、知識構造の広がりを明らかにすることができた。

一方で、システムの確認問題を1度解き、再度システムを利用する被験者が少ないという結果も得られた。今後繰り返しシステムを利用してもらえる機能をつけ、システムを改善していく必要がある。

(指導教員 宇陀則彦)